

②手軽さ重視のチョイ投げスタイル

足もとの敷き石回りや港内のミオ筋などの手ごろな地形変化を探るパターンでもカレイが釣れます。その場合は本格的なゴツイタックルではなく、取り回しのよい2本程度の竿を用いたチョイ投げスタイルで狙うのがおすすめ。しばらく待っても反応がなければ、すぐに移動できるのがこのスタイルのメリットです

道糸：ナイロン

2～3号前後

しなやかで適度な張りがあるぶん扱いやすいナイロンがおすすめです。号数は砂地帯であれば2号、敷き石回りやシモリが点在するなど海底が変化に富んでいる場所では3号が適します。

サルカン2～6号前後

本格派スタイルと同様です。

道糸とモスはサルカンで接続

モス：フロロ4～5号、 ハリス：フロロ2～3号

本格的な考え方は本格派スタイルと同様ですが、チョイ投げではアベレージサイズがやや落ちることが多い点を考慮するとモス4～5号、ハリス2～3号程度で問題ありません。トラブルが少ないうえ、投げやすいように全長は70号前後の短めとするのがおすすめです。

仕掛けの全長は70号前後

カレイバリ9～11号、 丸セイゴ11～12号

25号前後のカレイを想定した場合、号数はカレイバリなら9～11号、丸セイゴなら11～12号がマッチします。

オモリ：遊動式の L型天秤オモリ、 中通しオモリ6～10号

本格派スタイルと同様に食い込みを重視して遊動式のL型天秤オモリを使用します。丸玉などの中通しオモリを用いたシンプルなパターンでも問題なく釣れます。

スピニングリール 2500～3000番クラス

遠投する必要がないため、道糸が100号ほど巻けるサイズのリールであれば何でも構いません。

バス釣り用やエギング用をはじめとするルアーロッド7～8クラス(2本)前後の潮流の流れが緩い場所で使用する6～10号前後のオモリを無理なく投げられるロッドであれば何でも構いません。仕掛けはそれほど長くならないため、取り回しのよい2本前後がおすすめです。なお、近投とはいえ潮流の流れが速いポイントや時間帯を釣る場合は仕掛けが流されて思うように釣れないのがこのスタイルのマイナス点です。

2本ヨリの作り方

- ①モスを折り返し、交差した部分を手差し指と親指でつまんでネジリ上げ、ゆっくりと燃っていく。



- ②ムラができないように注意しながら20～30号ほどヨリを作る。

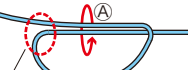


- ③燃った糸がほどけないように8の字結びで止める。



モスのチチワの作り方

- ①輪を作り、Aの部分の部分を輪の中に送り込む。



このあたりを重ねて指でつかんで固定

- ②同様に5～6回ほど巻きつける。



- ③重ねる部分にできた小さな輪に、最初の輪をくぐらせる。



- ④輪の大きさを調整しながら締め込めば完成。

